

認知症映画上映会

令和元年度
文化庁映画賞
文化記録映画大賞

ぴあ映画
初日満足度1位
(11月3日ぴあ調べ)

第92回
キネマ旬報ベスト・テン
文化映画3位

第43回
日本カトリック
映画賞

2018年度
全国映連賞
特別賞

第36回
日本映画
復興奨励賞

文部科学省
特別選定映画

厚生労働省
推薦映画

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私 —

ぼけますから、 よろしくお願いします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

監督・撮影・語り

ひとり娘 信友直子

プロデューサー：大島 新 演 潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀 治樹 山口浩史
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永憲一
配給宣伝協力：ボレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ

2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com

矢掛町 福祉介護課 地域包括支援センター



カメを向けて初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をしてい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



ドキュメンタリー映画

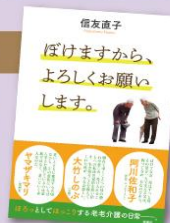
**ぼけますから、
よろしくお願いします。**



監督書き下ろしによる待望の書籍化！

あのシーン・この場面を撮影した時の心情、映像には入れなかった出来事、そして現在の信友家の様子まで、読めばまた映画が見たくなる感動作です。

「ぼけますから、よろしくお願いします。」信友直子 著
(株)新潮社 / 1,500円(税込) / 2019年10月21日刊行 / ※全国書店でも発売中



日 時 **令和7年9月27(土) 10:00~12:00 (開場9:30)**

会 場 **やかげ文化センター ホール**

対 象 **小学生以上の町内在住・在学・在勤者**

定 員 **250名まで (定員に満たない場合は当日入場可能)**

駐車場 **役場前駐車場、高橋職員駐車場、文化センター第2駐車場**

料 金 **無料 ※1人につき1枚チケットが必要です。**

・チケット配布場所 **役場 福祉介護課・町内各公民館・やかげ文化センター**

・チケット配布期間 **令和7年7月25日(金)~9月25日(木) 13:00**

【お問い合わせ】 福祉介護課 地域包括支援センター ☎ 82-1026